

「太陽系探検ガイド —エクストリームな50の場所—」

David Baker and Todd Ratcliff著(渡部潤一, 後藤真理子 翻訳)

朝倉書店 ISBN: 987-4-254-15020-9

発行日: 2012/10/20 価格(税込): 4725円 296頁

関口 朋彦¹

本書は"The 50 Most Extreme Places in Our Solar System (2010)"の翻訳である。著者のDavid Bakerはアメリカ・オースティン＝カレッジの物理学科長(教授)で、専門は環境物理、惑星物理、物理教育、地球システム科学教育となっている。『鑑訳者のまえがき』によれば執筆時には准教授であったようだ。もう一人の著者であるTodd RatcliffはNASA ジェット推進研究所・地球ダイナミクス部門所属の研究者であり惑星地球物理学者となっている。

取り上げられた題材はすべて太陽系の「エクストリーム」に的を絞っており、ひじょうに最近のトピックスやそれらの画像が取り上げられ「探検ガイド」と名打ってはいるが、当然ながら「地○の歩き方」とはかなり趣の異なるガイドブックである。

アメリカ人であるからであろうか、文面がキザだったり、あるいは前書きに(加えて謝辞にまで)この本がいかにおもしろいカスゴいという自賛を謙虚さなしに表現してあるのはご愛嬌。

本書の「エクストリーム」であるが、元々の構想が、地球の気象現象の議論の際にその議論の発展延長上にあった「エクストリーム」を表現しているらしく、『著者前書き』には、著者ら自身が欲していた「太陽系で一番エクストリームな場所はどこだろう? という問に答えてくれるような本」は、誰かが書かなくてはならないんだ、とか、「読者をあっと言わせ、クールで魅力的で『惑星科学の道へ進みたい』と思わせる内容が書かれている本」を作りたいんだ、とか、まったく別次元の話であるように思えてしまうような種々の熱く暑い思いが綴られている。

ペーパーバックであるが、一目にキレイな図柄の表紙が被せてあって、専門的な正確性を保ち、

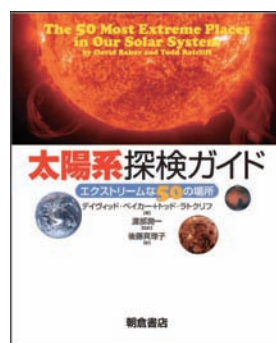
- ・約4ページで1トピックを扱う
- ・紙面の半分は図
- ・個々の項で内容が

自己完結している

ことが意図されており、そこには本物の撮影画像に加えて、ポンチ絵や想像図が多用されており、ダイナミクスを専門とする著者であるからだろう、実際の地球上の地形や地球の気象現象などとの対比も多く、表層運動の図などには必ず模式的な運動方向の矢印が描き込まれ、動きが目で見えて理解できるように工夫されている。用語集、参考文献もしっかりしている。

翻訳にやや不自然な日本語であるように感じられる部分もあるが、それは科学書籍における正確性を重要視する限りにおいて致し方ないと言ったところ。土星のミマスの章などには「おっと! 痕が残るじゃないか! — 衝突クレーター」という見出しになっており、訳には随所に工夫と苦勞の痕が見られる。

点数(星数)を5点で付けるとすると4星点か、そのマイナス1点は価格。「ちょっと読んでみよう」として買うには4,500円はやや高い。しかしながらこれも本書の多数のカラー画像を採用している故か、本の値段を減点対象とするのは、いささか酷なのかもしれない。(ちなみに某オンライン書店での原著のレビューでは4人とも5星でした。)



1. 北海道教育大学 旭川校
sekiguchi.tomohiko@a.hokkyodai.ac.jp